

注 意 報

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報の送付について

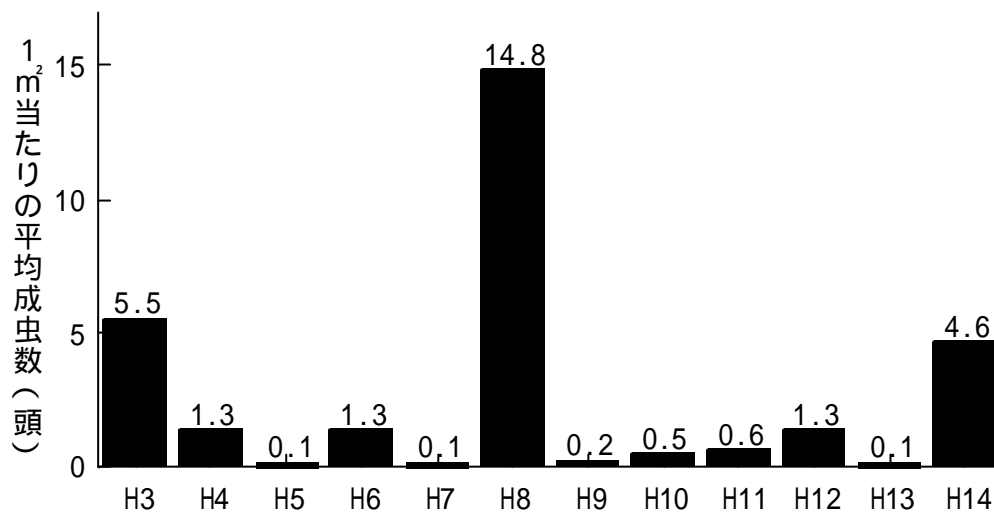
このことについて、病虫害発生予察注意報第1号を発表したので送付します。

平成14年度病虫害発生予察注意報第1号

- 1 対象作物 ウメ、ビワ、スモモ、モモ、ハウスマカン、ナシなど
- 2 病虫害名 果樹カメムシ類
- 3 発生地域 県内全域
- 4 発生程度 極多
- 5 予報内容
 - (1)すでにカメムシ類の活動が始まっており、気温の上昇とともに極めて多くのカメムシ類が果樹園に飛来し、被害が多発する恐れが強い。
- 6 注意報発令の根拠
 - (1)平成14年1月に、常緑広葉樹林下の落葉中におけるチャバネアオカメムシ成虫の越冬量を県下51地点(1地点:1㎡×3ヶ所 計3㎡)で調査した結果、越冬密度は1㎡あたり県平均で4.6頭(前年:0.08頭、平年:1.1頭)で平年・前年より多かった。
これは、過去24年間の中で平成8年(県平均14.8頭)、平成3年(県平均5.5頭)に次いで3番目に多い越冬量であった(第1図)。
また、この他に果樹を加害する主なカメムシであるツヤアオカメムシとクサギカメムシも、昨年秋期に多発生しており、これらのカメムシについても越冬量が多いと予想される。
 - (2)予察灯及びチャバネアオカメムシ集合フェロモンへの誘殺状況調査によると、予察灯への初飛来は4月7日で過去38年の中で最も早い。また、集合フェロモンへの初飛来は4月3日であり、過去3年の中で最も早く、誘殺数も多い(第1表)。
 - (3)シナノミサクラとウメをビーティングした結果、いずれも寄生が認められ、4月9日に果実で加害が認められた(第2表)。

7 防除上注意すべき事項

- (1) 多飛来が予測されるので、今後の発生に十分注意し、飛来状況に応じて防除を実施する。
- (2) 過去最大の越冬量であった平成8年のナシ園への本格的な飛来は6月下旬であった。しかし、本年は気温が高く経過し、ナシの生育も7～10日程度早まっているため、飛来時期も早まる可能性がある。
- (3) カメムシ類の寿命は長く、越冬した成虫は4月から7月まで多くの植物を移動しながら加害するので、今後の発生予察情報に注意する。
- (4) 防除薬剤は、樹種によって使用できる薬剤が異なるので、別紙及び平成14年度果樹病害虫防除基準を参照し、農薬安全使用基準（収穫前日数・使用回数）を遵守する（第3表）。



第1図 チャバネアオカメムシの越冬量の年次比較（県平均）

第1表 チャバネアオカメムシ集合フェロモンへの誘殺数の推移

	H10	H11	H12	H13	H14
4月1半旬	- 頭	1	0	0	5
2	-	0	0	0	16
3	-	0	0	0	
4	1	0	0	0	
5	49	1	0	3	
6	210	2	0	2	

（筑紫野市）

第2表 各種植物上のヒートンクによるカメムシ生息密度調査と果実被害

樹種名（品種名）	調査月日	生息密度（頭/枝）			果実被害
		チャバネアオカメムシ	ツヤアオカメムシ	クサキカメムシ	被害果/調査果数
サクラ(シナノミサクラ)	4月5日	0.3	0	0.1	0/50(0%)
	9日	0.6	0	0.1	1/50(2.0%)
ウメ(不明)	4月5日	0.2	0	0	0/30(0%)
	9日	0.6	0	0.2	1/30(3.3%)

注) ヒートンク調査は1枝当たり頭数

果実被害は調査果実数に対する口針鞘が認められた果実数（被害率）

第3表 チャバネアオカメムシに対する各種薬剤の効果と登録

平成13年8月31日現在

分類	薬剤名	接触効果	残効性	登録の有無								
				ト	ト	ミカ	カンキツ	ト	ト	ト	ト	ト
合成ピレスロイド系	マブリック水和剤	A	A						×			×
	マブリックE W	A	A						×		×	×
	マブリックナック水和剤	A	A			×	×		×	×	×	×
	テルスター水和剤	A	A						×		×	×
	MR.ジョーカー水和剤	A	A					×	×	×	×	×
	アーデント水和剤	A	B			×	×		×		×	×
	アグロスリン水和剤	A	B						×		×	×
	" 乳剤	A	B	×	×			×	×	×	×	×
	アディオン水和剤	A	B			×	×		×		×	×
	" 乳剤	A	B						×	×		×
	" フロアブル	A	B			×	×				×	×
	サイハロン水和剤	A	B				×		×		×	×
	バイスロイドE W	A	B						×		×	×
	パーマチオン水和剤	A	B			×	×		×	×	×	×
	ロディール水和剤	A	B						×		×	×
	ロディール乳剤	A	B	×	×				×	×	×	×
ミカントップ乳剤	A	B	×	×			×	×	×	×	×	
スカウトフロアブル	A	C							×	×	×	
" 乳剤	A	C			×			×	×	×	×	
トレボン水和剤	A	C			×	×		×	×	×	×	
" 乳剤	A	C	×	×			×	×	×	×	×	
ペイオフME液剤	A	C						×		×	×	
有機リン系	スミチオン水和剤	A	C			×	×		×		×	×
	" 乳剤	A	C				×		×		×	×
	ディブテレックス乳剤	A	C				×	×	×		×	×
	エルサン水和剤	A	C				×	×	×	×	×	×
	" 乳剤	A	C				×		×	×	×	×
	スプラサイド水和剤	A	C						×		×	×
	" 乳剤	A	C	×	×				×	×	×	×
	スミチオン粉剤	A	D			×	×		×	×	×	×
	ディブテレックス粉剤	A	D			×	×	×	×		×	×
ダイアジノン水和剤	B	-				×				×	×	
ダズバン水和剤	B	-			×	×			×	×	×	
" 乳剤	B	-	×	×		×	×	×		×	×	
他	アドマイヤーフロアブル	B	A		×				×		×	×
	" 水和剤	B	A			×	×				×	×
	" 顆粒水和剤	B	B			×	×		×		×	×

(注) (接触効果) A:散布1日後にほぼ100%の死虫率

B:散布1日後に生存虫がある

(残効性) A:5日以上、B:3日以上、C:1~2日、D:1日以下、-:試験例なし

(登録の有無)

:当該作物のカメムシに登録がある。

:当該作物に登録があるが、カメムシ対象には使用できない。

×:当該作物に登録はないので使用できない。

カンキツ:ミカンを除く